

地域に出張！説明会を行っています

4 審議経過に関する説明会(第二中・第六中・スイングホール)を開催！ 7月開催

中間まとめに「第二中・第六中を再編し統合新校を設置することが望ましい」と記載され、該当地域等の関係者に教育委員会の担当者が第7回審議会までの審議経過を説明しました。

当日の様子↓



対象：市民・保護者・教職員

《主な質問と回答》

出席者
61名



質疑回答集↓



すべての質疑応答を掲載できないため、詳しくは [コチラ](#) からご確認ください。

	質問	回答
1	境地区にはまだマンション等が建つ余地があるので、将来人口が増えるのではないかと。	今回の人口推計は直近5年間の地域ごとの人口推移を基にして算出した。土地の相続等に伴う開発のタイミングは読めないもので、反映されていない。
2	第二中、第六中を再編した場合の通学が心配。第二中、第六中以外にも学校があり、交通量がかなり多い現状がある。スクールバスの導入等、安全性の確保が課題。	審議会でも課題として認識している。昨年度から部活動の拠点校方式を開始し、安全講習会受講、ヘルメット着用などの条件で自転車通学を認めており、大きな事故はなく進められている。スクールバスの運行は、運転手不足が課題であり、難しいと考えている。
3	第二中と第六中を再編する理由がわからない。私立進学率が都内でも高いが、今後どうなると考えてるか。	武蔵野市第六期長期計画・第二次調整計画の中で中学校の適正な数を検討することになったことを受けて、現在審議会を設置し、検討している。審議会では、子どもの学びを第一に1校12学級以上18学級以下が適正規模としてまとめた。審議会では第二中と第六中は20年後、それぞれ適正規模に満たない規模のため、再編し、統合新校を設置することが望ましいとまとめられた。
4	全市的な視点からの中学校の数という諮問に基づいて審議していると思うが、第二中と第六中の方策が中心に議論されている。どの辺りが全市的な審議なのか。	第二中と第六中に限らず、これからの学校をどうやって建て替えていくのかという全市的なところから議論をスタートした。長期計画に記載されている学校の数を決めていくにあたり、どの程度の規模感が必要なのかという議論から始めている。

今後の審議会スケジュール ※スケジュールは令和8年8月時点での予定であり、今後変更する可能性があります。

	開催日	主な内容
第8回	8月24日(月)	・計画・設計の具体的事項(施設規模、施設の配置と整備方針) ・整備スケジュールと費用の見通し(整備スケジュール、事業費(現段階の参考試算)について)
第9回	10月5日(月)	・答申(案)に関する審議
	11月12日(木)～ 12月2日(水)	・答申(案)に関するパブリックコメント
第10回	12月21日	・答申

発行：令和8年8月 武蔵野市教育委員会 教育企画課 学校改築係
TEL:0422-60-1972 FAX:0422-51-9264
MAIL:SEC-KYOUIKU@city.musashino.lg.jp

これまで発行したリーフレットは
[コチラ](#)→



《武蔵野市教育委員会リーフレット》

みんなで考えよう！

資料 1
令和8年8月24日
第8回審議会資料

武蔵野市の未来の学校づくり vol.9

6月30日開催

第7回審議会 News

審議会は13名(校長、PTA、地域住民、学識経験者、市職員)で構成

子どもの学びを第一に
審議しました！



1 未来を見据えた校舎のあり方について審議

6月30日開催の第二期学校施設整備基本計画策定審議会(第7回)では、「未来を見据えた校舎のあり方」について、各委員による審議が行われました。

2 基本理念と基本方針

【基本理念】子どもたちにとって「明日また行きたい」と思える学校

子どもたちが毎日楽しみに登校し、子どもたちにとって「明日また行きたい」と思える学校の創造を目指します。

多様な「出会い」の創出

偶発的な学びや発見を促す空間



活動に応じた

多様な居場所の提供

子どもたちが自由に選択できる場

心理的・物理的側面への配慮

安心して心地よく過ごせる環境

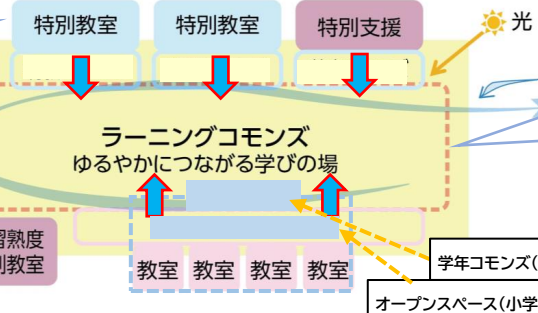
【基本方針】校舎全体をゆるやかにつなぐ学びの空間整備

開放的なラーニング・コモンズを中心に配置し、さらに多様な空間を連続的に配置して校舎全体をゆるやかにつなぎます。

新たな学びとの出会いの場となり、そして児童生徒自ら学びの場を見つけることにつながります。



個別の部屋に関する内容については、2～3ページをご覧ください。



オンライン傍聴
申込は[コチラ](#)↓



【次回(第8回)の審議内容(予定)】

計画・設計の具体的事項、整備スケジュールと費用の見通しについて

第8回審議会は、8月24日(月)17時～開催予定です

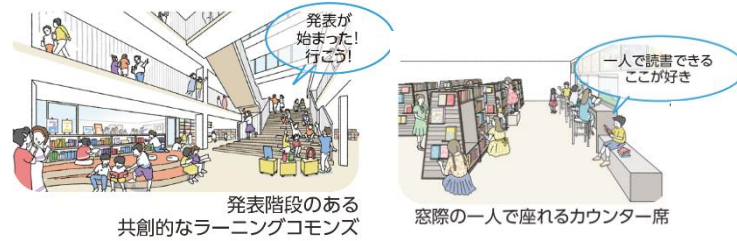
子どもの学びを第一に！審議会で多角的に議論！

3 学校施設整備に向けた考え方（概要）

(1) 学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的な学びができる施設

ラーニング・コモンズ

- ・学びの中心にラーニング・コモンズを整備
- ・読書、調べ学習、発表等に使用できる多目的室を併設
- ・どの教室からも利用しやすい学校の中心に開放的に整備



児童生徒アンケート

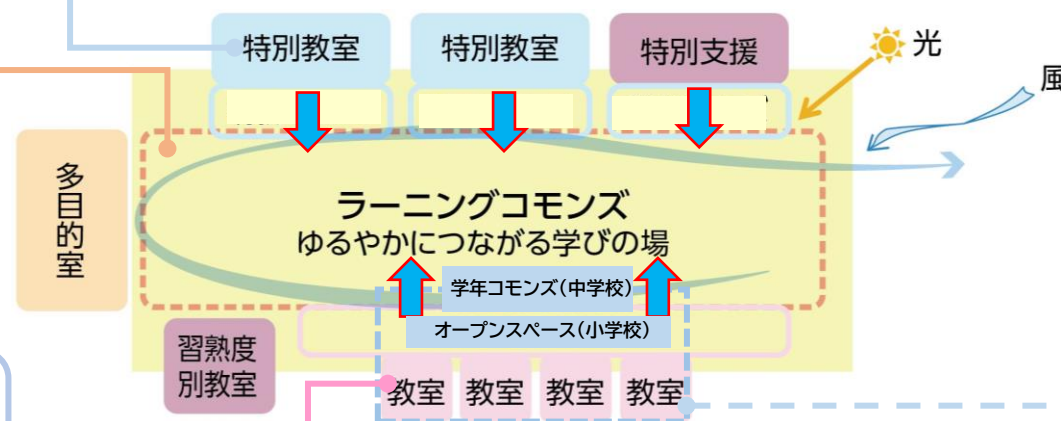
特別教室・特別教室まわり

- ・教科教育の充実
- ・授業に必要な器具、情報機器等を効果的に活用できる施設環境整備

生徒・児童の興味・関心をそそる特別教室づくり



「パブコメ、児童生徒アンケート」で出された意見を活かした箇所を吹き出しで表示



ラーニングコモンズ
ゆるやかにつながる学びの場

学年コモンズ(中学校)

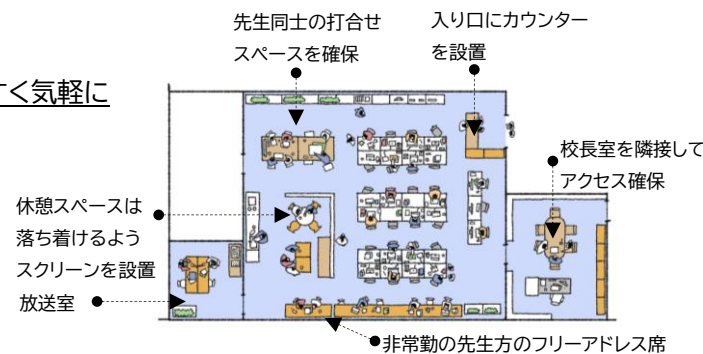
オープンスペース(小学校)

習熟度別教室

教室 教室 教室 教室

管理諸室

- ・管理諸室を一体的に配置
- ・児童・生徒が立ち寄りやすく気軽に先生に相談ができる設え



先生同士の打合せスペースを確保

入り口にカウンターを設置

校長室を隣接してアクセス確保

休憩スペースは落ち着けるようスクリーンを設置

放送室

【職員室まわりの参考例】

教室・教室まわり

- ・さまざまな出会いができる多様な居場所づくり
 - ・多様な学習形態に対応
- ⇒「明日また行きたい」きっかけを育む

パブコメ
児童生徒アンケート

パブコメ

小学校

- 普通教室まわりに「オープンスペース」を計画
- 個別最適な学びと協働的な学びに柔軟に対応

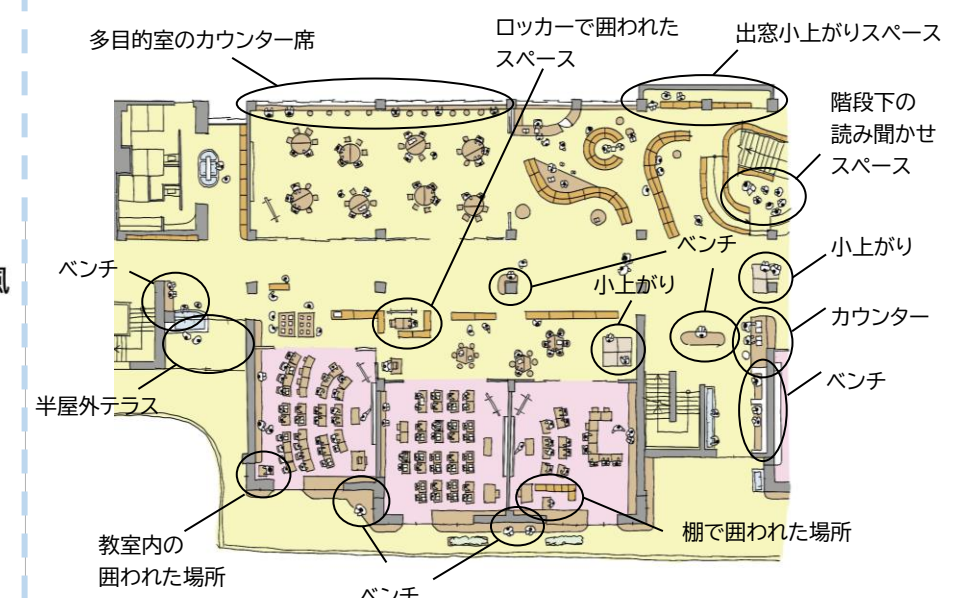


中学校

- 普通教室に面して「学年コモンズ」を設置
- 交流の場となる多様な利用形態に対応できる



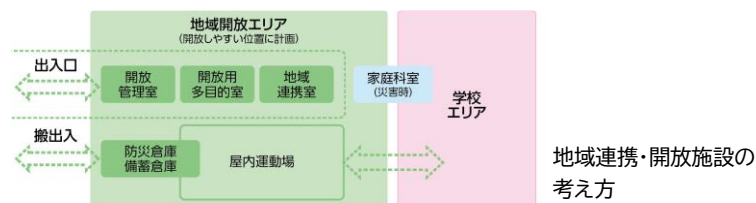
「明日また行きたくなる」
多様な居場所のイメージ



(2) 地域のつながりを育てる施設の考え方

地域連携・開放施設

- ・一部の施設は当初から地域への開放を想定
- ・防犯対策で安全性を確保したうえで、様々な利用者に配慮した快適、健康、安全で利用しやすい施設に



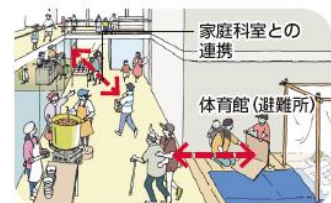
児童生徒アンケート

地域の避難所となる施設

- ・避難所は、障害者、高齢者、妊産婦等の要配慮者の利用を想定
- ・災害時の炊き出しの実施も想定
- ・教育活動の早期再開が可能となるよう配慮

(3) 安全な施設づくりの考え方

- ・長く使い続けられ、自然災害にも強い建物
- ・将来的なレイアウト変更にも対応できる建物
- ・児童生徒の心身の健康を支える環境づくり
- ・地球環境にも配慮したエコな学校づくり
- ・不審者の侵入防止など、児童生徒の安全を守る防犯対策・安全対策の実施
- ・すべての児童生徒、教職員のためのバリアフリーな施設
- ・地域開放、避難所利用も踏まえ、多様な人々が利用することを想定した計画



① 災害時の炊き出し広場

第7回 審議会での主な意見

安心できる居場所

最近建て替えた第一中、第五中はラーニング・コモンズが憩いの場になっていたり、学年コモンズが生徒同士の交流の場になっていて良い。一方で見られている意識が強く落ち着かない空間になっていると感じた。子どもたちが落ち着けるような空間整備の視点がもっとあるといい。

クールダウンスペース

これまでの審議会でもクールダウンスペースが重要だという議論があったと思う。よりオープンにしていこうという方向性はあるとして、一方でクールダウンスペースは重要な要素のため、明確に記載したほうがいいと思う。

災害時の避難所

災害発生時には、いち早く、安全に避難所の開設をしなければならない。そのためには、避難所施設の使用環境を整えておくことが必要であり、荒天時であっても機能対応できる環境が望ましい。また、避難所の利用計画は、時間の経過とともに変更が求められる。利用形態に合わせ、柔軟に変更可能な施設設計とする必要がある。

学校と地域のつながり

学校は、子どもたちが地域のさまざまな大人と出会い、社会とのつながりを感じられる場であってほしい。単に地域開放エリアを設けるだけでなく、子どもたちが地域の方々の活動や存在を自然に感じられるような、ゆるやかな接点のある空間づくりを検討してほしい。

今回の詳細な内容は第7回審議会資料4に掲載しています。

